

令和6年度 第2回学校運営協議会（コミュニティスクール） 報告

1. 日 時：令和6年10月10日（木） 午後1時30分から3時30分まで

2. 場 所：静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校

3. 出席者：島田 晴夫 様（元伊東市立中学校教諭）

荻野 耕介 様（伊豆介護センター）（欠席）

中井 智実 様（伊豆伊東高等学校PTA会長）

田畑まどか 様（特定非営利活動法人 絆翔）（欠席）

望月 正仁 様（NPO 法人 伊豆高原 BASE）

関川 永子 様（本校PTA 会長）

学校：増井 孝弘（教頭）、小松 真理（高等部主事）、佐藤 弘康（教務課長）

4. 内 容 司会（増井） 記録（佐藤）

(1) 教頭あいさつ

(2) 校内参観（体育）

<協議会委員の感想等>

- ・試合の勝ち負けだけでなく、友達の様子を見る
友達を応援すること も学習
- ・高校生になって気持ちの整え方が上手になってきている。以前は自信がもてず集団に入れなかった生徒が集団の中で活動をしている。
- ・先生たちが阿吽の呼吸で動いている、連携が取れている。
- ・体育美術、音楽などは本校には専科の教員が入っている。体育などはでは、身に付けたい動きの指導に専門的な観点からアプローチをすることができている。

(3) 学校運営の進捗状況（前期学校評価について）

【守る】

- ・避難経路、気象災害の対応の改善（内容確認）

【育む】

- ・外部の先生も招いての学習会の実施
- ・教師に対するミニ研修の実施
- ・進路指導については、本人だけでなく保護者の意見も聞きながら取り組んでいる。並行して外部とも連携しながらスムーズな移行ができるように取り組んでいる。

【つなぐ】

- ・高等部になってからでは支援の限界もあるが、担任が抱え込まずに学年で考えたい、時にはケース会議を行い全体に周知したりすることで積み上がっていくこともある。
- ・共生共育では、マーケティング部との交流を行った。伊豆高原フェスタでは一緒に販売する計画もある。
- ・地域とのつながりでは、「ITO 結びマーケット」等に参加予定
→社会と交わる良い機会
→自分から社会に出るチャンスをこれからも与えてほしい。

(4) 意見交換

○会議の効率化

- ・事前に資料を渡し、どこが重要かを明確にするとよい。
- ・民間のアイデアを参考にしてもよい